



『ニトリの働き方』

似鳥 昭雄(著)
大和書房
(2020/9)
1,540円

圧倒的な安定成長を続けるニトリの創業者と39名の社員が、経営の強さを語る一冊。

【感想】

「住まいの豊かさを世界の人々に提供する」というロマン(志)を掲げ、不況をもとせず、33期連続増収増益の成長を続けているニトリ。

売上高 6422 億円、経常利益 1095 億円(2020年2月期)、損益分岐点比率 70%、自己資本比率 80%超、総資産経常利益率 10%と、財務体質・利益体質ともに圧倒的な業績です。

会長兼CEO、似鳥昭雄氏の教訓に続き、総勢 39 人のニトリ社員が現場で教えをどう活かしたかがそれぞれの言葉で書かれており、ニトリの経営の強さを知ることができる一冊です。

現場の社員の方のエピソードを読んでいると、似鳥会長のビジョン・経営方針・お客様に対する姿勢が、現場に徹底的に落とし込まれており、かつ、数字に基づいて、圧倒的なスピードと量でPDCAを回していることが、まじまじと感ずることができます。

【以下引用】

・観察・分析・判断という3つの行動のクセをつけさせるため、ニトリでは毎週、品目や部門、店舗ごとに客数や利益を数値化して集計し、数値向上のための新たな対策を講ずる「ウィークリー・マネジメント」を導入しています。

・うまくいかなければ、「方向、方法、手順」の順で検証する。何か問題が起きたときには、まず「方向」が正しいかどうか検討します。方向が間違っていたら、それを正さなくてはなりません。お客様の利益に合う方向を向いているか、自分や会社ばかりに都合のいい考えになっていないかを検証するのです。次に「方法」です。思うように仕事が進まない、効果が出ないというときは、今のやり方の効果検証を繰り返し、最も効率の良い方法を見つけ出します。

・ニトリには、初めてのチャレンジを評価し、その反対にいつも同じことをしていると「他に何かないの?」と言われてしまう文化があります。

同じ部署に5年いると化石になる。これはニトリで語られている言葉です。

・仕事を好きになるための一番のポイントは、数字と状態を変えられる、その体験をすることです。自分が計画し、実行することで、問題が解決し、あるべき状態へと変わる。その楽しさを知るべきです。

・人は、誰かの役に立って喜ばれたときや、自分を活かすことができたときに充実感を得るものです。一生をかけるに値するロマンがあり、それに向けて仕事をしていると実感できたときにこそ、その仕事はやりがいではなく、「生きがい」となるのです。

経営者のビジョンや戦略を社員全員が共感して、現場に落とし込んでいる全員経営のお手本です。経営者が社員の仕事に対して厳しく細かくチェックする執念も迫力があります。